

次期SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）
包摂的コミュニティプラットフォームの構築に係るフィージビリティスタディ（FS）の
実施方針

対象課題候補	包摂的コミュニティプラットフォームの構築
課題候補のコンセプト	ジェンダー、年齢、障がいなどに関わらず、多様な人々が社会的にも精神的にも豊かで暮らしやすいコミュニティを実現するため、プライバシーを完全に保護しつつ、社会活動への主体的参加を促し、必要なサポートが得られる仕組みを構築する。
目指すべき社会像と実現に当たったの社会課題	<p>これからの社会では、多様な個人が、日々において生きがいを持って、そしてできる限り孤立とは無縁となる包摂的なコミュニティの形成が必要である。</p> <p>一方、多くの高齢者は、コミュニティの中で自分がどのように生きがいを持ちながら生活するのか、というイメージを持っていないことが、結果的に自身の健康を保つことを難しくしているのではないかと考えられる。また、高齢者、妊産婦、障がい者やその家族など、社会的孤立や孤独によるウェル・ビーイングの低下が危惧され様々な課題を生み出している。</p> <p>さらに、病気や障がいがあっても、また介護が必要になったとしても、社会との繋がりを保ち、役割を持って生活できる環境を整備することが重要である。</p>
解決法とSIPで取り組むべきサブ課題の選定理由	<p>包摂的なコミュニティでは、①多くの住民をできる限り自立期間を延ばす視点と、②障がい者、心身の病弱者、要介護者等が、コミュニティで健康な者と共に触れ合い、時には支えあう生活をサポートできる視点での科学及び社会技術の開発が必要である。</p> <p>そのためには、第一に、何らかの障がいがあっても社会参加できるような合理的な配慮が社会の側に整備されていることが求められる。また第二に、自宅での自立した暮らしを少しでも長く続けるために、例えば適切な福祉機器やサービスを使いこなすとともに、住宅環境の整備や地域で支える仕組み、さらには支えるケア側の提供体制の質や持続可能性、さらに、人材不足を背景として、ICTを用いてケアの質と生産性を高める技術の開発や普及なども求められる。第三に、多様な個性やニーズを持つ個人を受容するコミュニティ創りを行う地域資源の活用及びその社会サービス化が必要となってくる。</p> <p>以上のような観点等を踏まえ、現時点では以下のようなサブ課題を設定し、FSに取り組むこととする。</p> <p>課題① つながりを支援するインフラ整備、在宅等における電子的情報の活用促進 課題② 多様な世代における社会的包摂コミュニティの隘路の検証 課題③ 給付制度に頼らない福祉機器・サービスの環境整備 課題④ AI、ロボティクスなどの科学・社会技術の地域コミュニティにおける実装検討</p>
課題候補の基礎的	目的 FSでは、上記仮説の確からしさや定量的な強み弱み比較、または社会での重要性の明確化、及び今後開発が必要な社会技術や制度、及び産業創出の可能性などを明らか

調査	<p>にすることである。とくに、社会的処方、自治体と医療・介護等との連携による、無関心層や社会的弱者（妊産婦、高齢者、障がい者等）を含めた多数の健康度が高まる包括的なコミュニティの実現及びそれを実現するための多様性及びヘルス・リテラシーレベルを明らかにするとともに、包括的なコミュニティプラットフォームの構築を目指すための方向性を得る。</p>
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的孤立や虚弱者（要介護）を生み出す社会要因、個人の特性、及び近隣環境等関係に関する分析 ・ コミュニティにおける包括的な人間関係の定量化の検討 ・ 技術ベンチマーク：論文、特許による対象技術分野の評価、自他国企業の標準化やオープンクローズ戦略の評価 ・ プロジェクトベンチマーク：国内外プロジェクトや事業の比較と市場性の検討（強み弱み） ・ 包括的なコミュニティ再生を促進するための制度や施策の検証：各国、我が国、及び地域の規制、制度、政策の評価 ・ 社会実装性指標（TRL、BRL など）の活用についての検討
目的	<p>サブ課題に関する技術的実現性、社会的実現性についての調査を行い、研究開発計画の策定の際の課題構成や研究開発体制等について検討する。</p>
サブ課題の中核的な研究開発テーマ候補の技術実現性等調査	<p>各サブ課題において、以下のような事項について調査等を行うこととする。</p> <p>課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世代や性別、障害種別等による関係の分断、デジタルデバイド等社会的排除リスクの要因分析 ・ 社会的包摂リスク要因分析に基づいた市民のケアに関する知識や経験を把握するための指標に必要な項目、要件の明確化 ・ 包括的コミュニティに向けた社会的排除リスクの要因分析に基づく環境基盤、技術の構築及び技術受容性の検討 ・ 在宅における24時間の生活の把握状況の実態把握と課題抽出 ・ 介護保険事業所、在宅療養支援診療所等におけるIoT,ICT使用状況及び取扱い指針や取扱いの実態把握と課題抽出 ・ 24時間の生活行動情報（電子的）を活用したケアマネジメント実践、多職種連携への適用の必要性、意義、実現可能性に関する調査 ・ セルフマネジメント促進に活用可能なデータを提供する機器、サービス把握（市場調査） <p>課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異なるグループについてそれぞれが望まない孤立に陥るメカニズム及び孤立から孤独に陥るメカニズムの解明のための基礎調査として、文献調査、コミュニティ・企業等へのヒアリング ・ 孤立化を防ぐためのサポート機関・専門職間の電子的な情報共有の促進によるサー

	<p>ビスやケアの質の向上と業務効率化（生産性向上）の実現のための基礎調査として、サポート機関と専門職へのヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 孤立・孤独に直接的、間接的に関わる法律や制度の調査 <p>課題③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給付制度に頼らない広い範囲の福祉機器を活用し、在宅生活の自立を促進するコミュニティシステムの課題整理、実装可能性の確認 ・ 容易に蓄積可能な福祉機器の利用効果測定手法の課題整理 ・ 福祉機器の利活用に関する情報の蓄積システムの課題整理 ・ コミュニティにおける福祉機器の利活用を促進する人材育成や用具の評価方法に関する課題整理、実装可能性の確認 ・ 福祉機器のデータ利活用の仕組みづくりに向けた課題整理、実装可能性の確認 <p>課題④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の地域自治体、コホート、介護にいたる疾患の急性期から慢性期移行までの患者データ、民間企業の保有するデータ等を利用し、AI、IOT、ロボティクスなどの効果的な活用を図ることにより、介護予防および障害者、ヤングケアラーを含む介護者等の社会参画を進めるテクノロジーの開発等を行う。 ・ 地域に根ざす NPO 法人などと連携し、多様な個人を受け入れるコミュニティの形成について検討するとともに、さらにユニバーサルなサービスとしての展開を目標として、多様な個性を持つ人々の社会参画を促進する。また、多様な個人の様々な悩みをメタバース、SNS などを活用して解決できるような仕組みづくりを進めるとともに、社会制度としての支援策についても検討を行う。
--	--

○ スケジュール

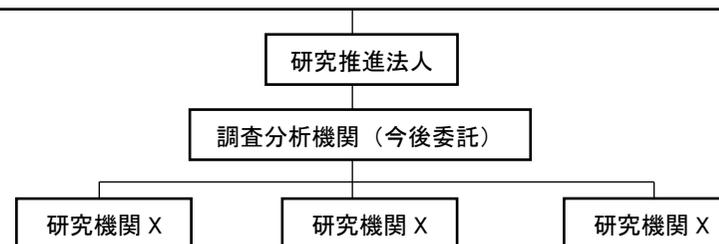
実施項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TF 活動	▼キックオフ 方針作成→	▼実施方針決定								
基礎的調査										
個別テーマ調査		内容検討	調査・実証開始							
研究開発計画					▼取りまとめ					

○ 予算配分

項目	金額（百万円）
FS 一式（間接経費含む。）	175

○ 体制

- TF
- ・ TF 座長（PD 候補） 久野 譜也
 - ・ 有識者（SPD 候補） 二瓶 美里、石山 麗子、松島 みどり、井上 剛伸、大津 欣也
 - ・ 関係省庁 厚労省厚生科学課、経産省医療・福祉機器産業室、国交省まちづくり推進課
 - ・ 研究推進法人 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
 - ・ 内閣府課題担当



○ サブ課題と研究テーマ候補

サブ課題候補	概要・研究開発テーマ候補	担当機関
1) つながり支援するインフラ整備、在宅等における電子的情報の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者を含む多様な人々が共生することによる市民の潜在的な健康と（広義な意味での）ケアの解決策を促進する知識と能力（ケアリテラシー）の向上 ・多様な特性を有する人々の関係性やつながり支援するかわり合いの機器・システム、またそれらを実装するプラットフォームづくりによる豊かな包摂的コミュニティの実現・在宅高齢者や障害者が自らの生活の営みに関心をもって生活の実態を数値で把握し、多職種のサジェスチョンをうけながら、より良い暮らしの実現に向けてコントロールする、そのための新しい在宅支援サービスの開発 ・生活支援を担う専門職間の電子的な情報共有の促進によるケアの質の向上と業務効率化（生産性向上）の実現 	検討中
2) 多様な世代における社会的包摂コミュニティの隘路の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、妊産婦、障がい者とその家族、といった孤立化のリスクが高く、また孤立による心身の健康状態への負の影響が強いグループの孤立を予防するために、必要な支援に効果的につながることができるコミュニティシステムの開発のための基礎調査 ・孤立から孤独に陥ることを防ぐための社会的・医学的介入の実現のための基礎調査 ・孤立化を防ぐためのサポート機関・専門職間の電子的な情報共有の促進によるサービスやケアの質の向上と業務効率化（生産性向上）の実現のための基礎調査 	検討中
3) 給付制度に頼らない福祉機器・サービスの環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする人が、幅広く適切な福祉機器を活用して、自立・自律し、社会とつながった生活を送れるコミュニティの実現 ・得られたデータを基に福祉機器の利活用を促進するための仕組みづくり 	検討中
4) AI、ロボティクスなどの科学・社会技術の地域コミュニティにおける実装検討	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な科学技術や社会技術の実装のため、地域コミュニティに先進的社会インフラ・AI/IT・ロボット技術、社会サービス等を実装してその検証を行う。 ・NPOなどの地域資源も活用しながら、多様性のある方々を互いに受容し合う地域コミュニティを醸成させ、孤独を感じる方々や悩みを持つ方々が生きがいや喜びを見出し、孤独・孤立のない共生がもたらされる地域コミュニティの実現を目指す。 	検討中

＜本実施方針に係る連絡先＞
 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
 人・暮らし担当
 Tel: 03-6910-2050